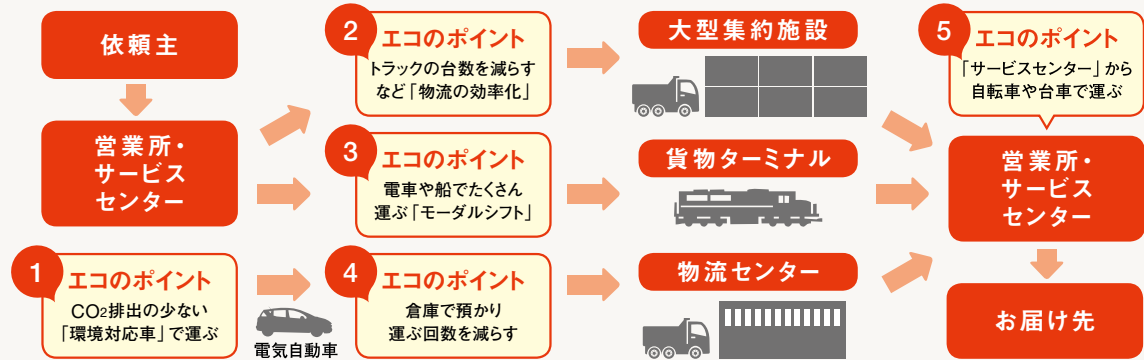


配送システム全体でCO₂排出量を減らす取り組み



トラックを走らせる限り、CO₂排出量削減は最大のテーマです

ほかにもSGHは、通常は別々の場で行う保管や物流加工などをすべてSGH施設内で実施することで運送回数を削減したり、サービスセンターから自転車や台車で配送したりと、配送システムの随所でCO₂排出量削減に取り組んでいます。

環境問題と地域の課題の両方を解決していく

紹介した以外にも様々な取り組みをしているSGHですが「まだまだやれることはあります」と依田さんは言います。例えば、17年には旭川市のタクシー会社との提携を開始しました。乗合タクシーの空いている時間帯に、配達業務を担ってもらおうという取り組みです。輸送トラックの台数削減、地域の交通インフラの維持、輸送にかかる労働力確保といった問題を同時に解決できる新たなソリューションとして注目を集めています。「環境保全はもちろんです、少子高齢化への対応や地域の活性化といった社会の課題にも、グループ全体で取り組んでいきます」

環境教育で豊かに育つ一人ひとりの環境意識

SGHは「全国ユース環境ネット



SGホールディングス株式会社

SGホールディングス株式会社は、佐川急便を中核とした総合物流企業グループ・SGホールディングスグループ全体の経営戦略や管理、それらに付帯する業務を担う会社です。SGホールディングスグループは、日本の物流業界のリーディングカンパニーとして積極的な環境負荷低減策を展開しています。今回はその中でも、CO₂排出量削減への取り組みについてお話を伺いました。



配送システムを見直してCO₂排出量を削減！

SGホールディングスグループ（以下、SGH）の事業の中核は「物流」、つまりモノを運ぶことです。古くは飛脚が足で荷物を運んでいましたが、現代はトラックや飛行機を使って運ぶため、物流には常にCO₂の排出という問題が伴います。持続可能な社会の発展に向けて、いかにして物流における環境負荷を減らしていくか——SGHは、配送システム全体でのCO₂の排出量削減に取り組んでいます。

まずは、街なかでもよく見かける佐川急便のトラックです。SGHは早くから運送用車両に環境対応車の導入を進め、2011年にはトラック部門で天然ガストラック保有台数世界一に認定されました（国際天然ガス自動車協会調べ）。最近では、より環境負荷を低減させるハイブリッドトラックや電気自動車の導入も進め、グループ全車両台数の約4割を占める9172台が環境対応車になっています（16年度）。総務部広報・CSRユニットの依田桃子さんは「総合物流企業としてトラックを走らせる以上、できる限りの環境配慮をしていくことがグループの使命

だと考えています」と語ります。

「物流の効率化」にも取り組んでいます。例えば大規模ショッピングセンターや量販店に対して、商品をSGHの中継センターや営業所に集約し、そこで事前にアイテムや階層ごとなどに仕分けをしてから納品する方法を提案。仕入れから入荷までの輸送の全工程を効率化することで、トラックの台数や運行時間を大幅に抑えることができました。「ただ依頼された荷物を運ぶだけではなく、より効率的に運び届けるサービスを提供したいと考えています」

コンテナ列車の運行で環境負荷を大幅に低減

もう一つ注目したいのが「モーダルシフト」、つまりトラックによる貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な鉄道や船舶に転換していくことです。佐川急便は04年から日本貨物鉄道株式会社との共同開発によって誕生した特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」による宅配便輸送を実施しています。東京／大阪間を毎日深夜に上下1便ずつ運行。1便の合計積載量は10トントラック28台分に匹敵するため、CO₂の大幅削減の実現につながっています。

企業情報

SGホールディングス株式会社



SGホールディングスグループは、「デリバリー」「ロジスティクス」「不動産」および自動車整備事業などの「その他」の事業分野でビジネスを展開しています。

本社所在地 京都市南区上鳥羽角田町68番地

お問い合わせ先 上記住所までご連絡ください

URL <http://www.sg-hldgs.co.jp/>



自社で保有・管理する森林での散策や間伐体験、間伐材を使った箸づくりなどの自然体験学習には、年間約500人の参加者が訪れる



子どもたちに自然の恵みや食物の大切さ、水田が育む豊かな生態系を知ってもらうために稲作体験を実施



自社で集荷・配達に使用するトラックの多くを環境対応車に切り替えている。今後はさらに環境負荷低減効果の高い自動車を導入していく